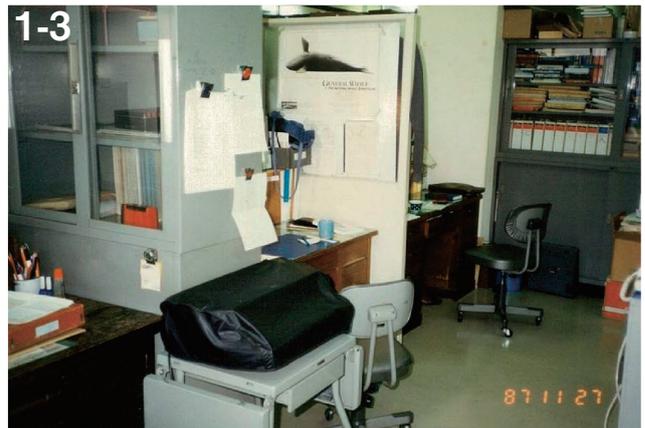


## 写真で見る日本鯨類研究所の活動



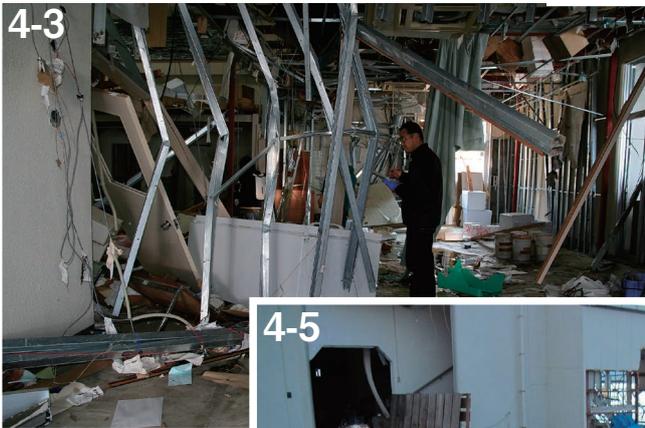
1-1 設立間もない日本鯨類研究所（江東区大島）（1988年）。1-2 日本鯨類研究所玄関（1988年）。1-3 大島時代の日鯨研研究室風景（1987年）。1-4 大島時代の日鯨研実験室（1987年）。



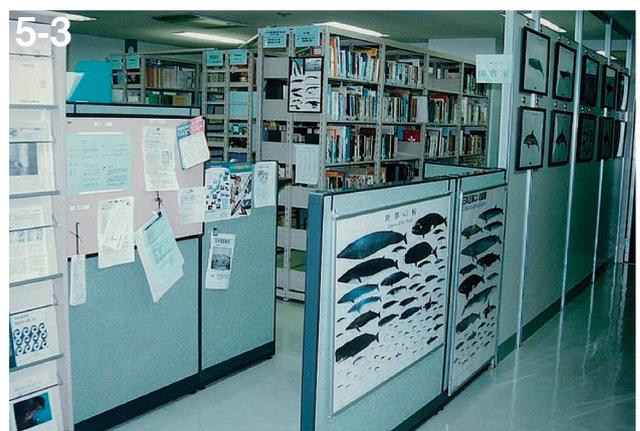
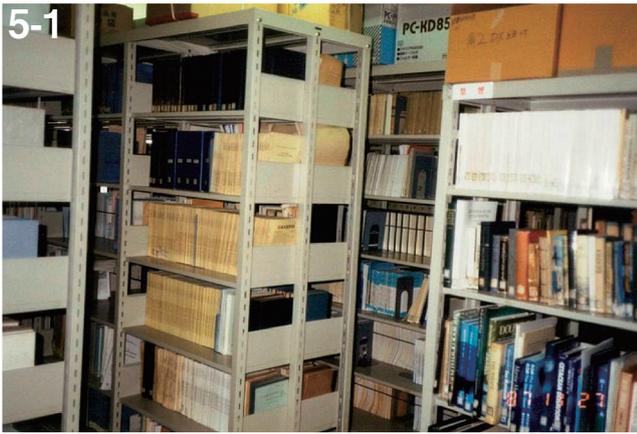
2-1 豊海水産ビルの鯨研入り口。2-2 日鯨研総務部（1989年）。2-3 情報文化部から研究部を望む（2003年）。2-4 豊海振興ビルに移ってからの日鯨研風景（2003年）。



3-1 開設頃の鮎川実験場。3-2 鮎川実験場の正面。3-3 鮎川実験場の図書資料室。3-4 鯨骨などの標本保管室。3-5 実験室。  
3-6 実験室。3-7 遺伝学試験室。



4-1 東日本大震災後の鮎川実験場。4-2 被害の確認を行う鮎川実験場職員。4-3 日鯨研職員による視察・被害状況確認。4-4 標本等の片付け作業。4-5 標本の回収・片付け作業。4-6 回収された鯨骨標本の保管状況。4-7 回収された標本の保管状況。



5-1 大島時代の日鯨研図書室。5-2 豊海水産ビル時代の図書室。5-3 日鯨研図書課。5-4 豊海振興ビルへ引っ越してからの図書室。5-5 現在の日鯨研図書資料室風景。

## IDCR 1978/79-1995/96

6-1

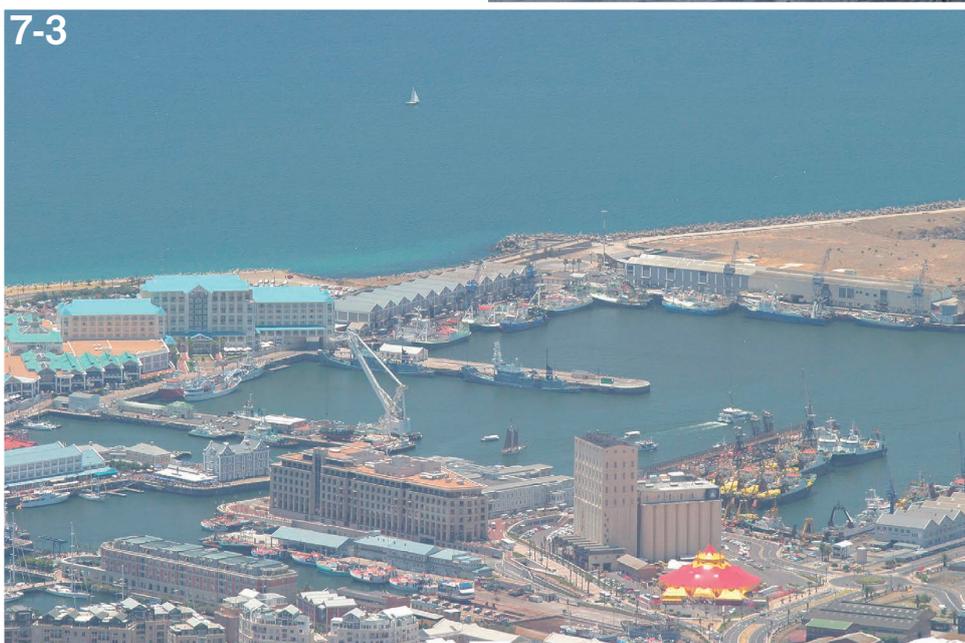


6-2



6-1 南極大陸岸航行中のIDCR調査船。6-2 シロナガスクジラの噴気（IDCR調査）。

## SOWER 1996/97-2009/10



7-1 SOWER 計画会議の様子（日鯨研会議室）。7-2 ザトウクジラの群れに接近。7-3 ケープタウン寄港中の調査船（写真中央）。

## JARPA 1987/88-2004/05



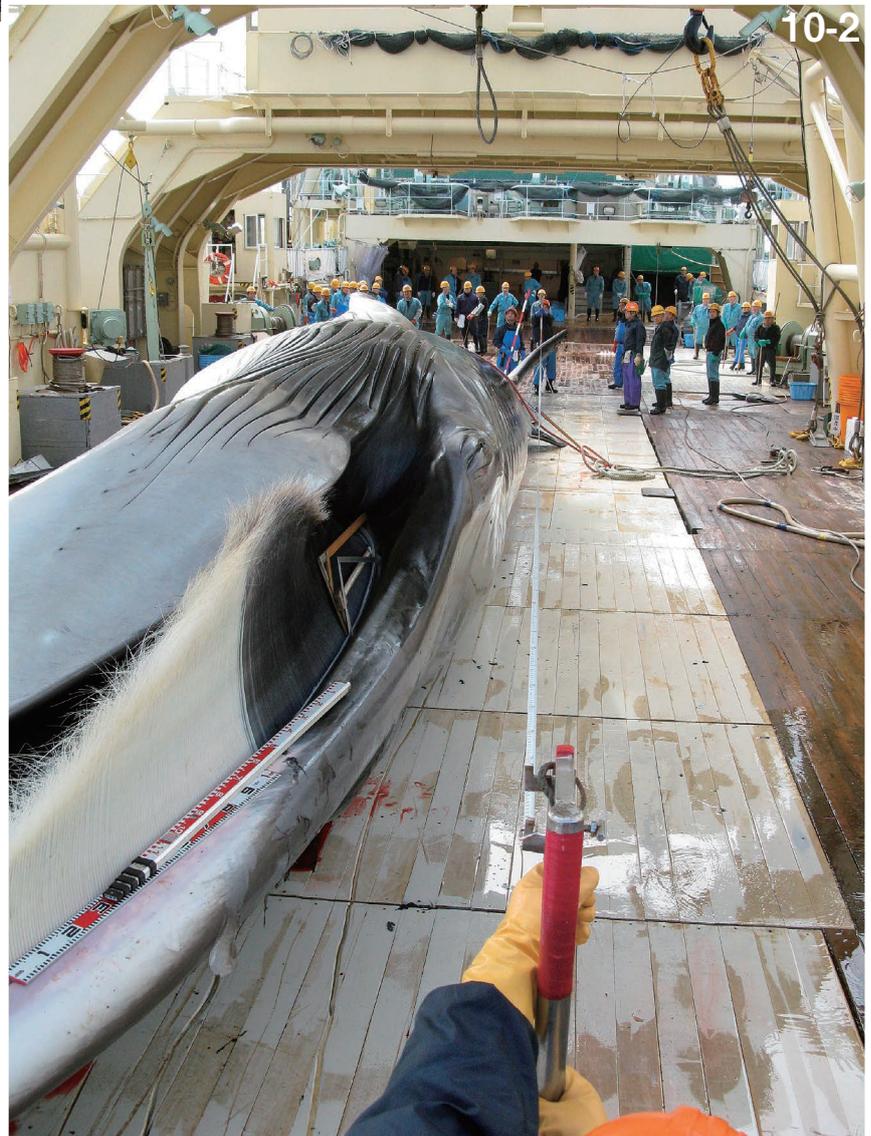
8-1 調査母船日新丸の実験室。8-2 クロミンクジラの群れ。8-3 シロナガスクジラのバイオプシー採取。

## JARPA 1987/88-2004/05



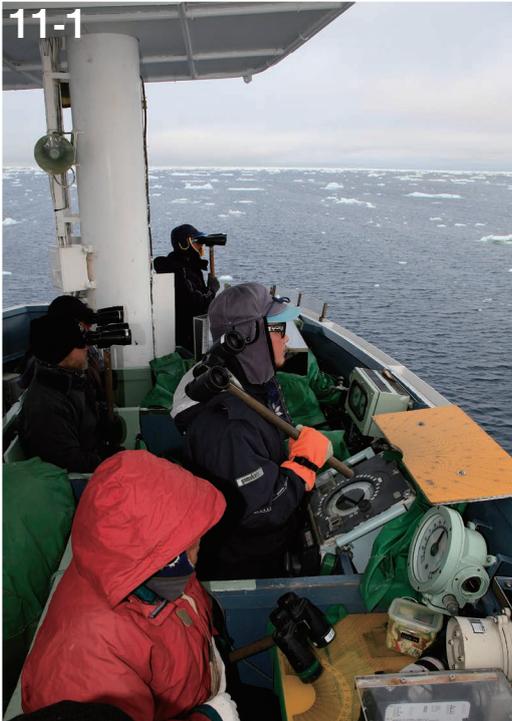
9-1 JARPA 出港式。9-2 鯨体を計測する調査員。9-3 クロミンククジラの耳垢栓採集。

## JARPA II 2005/06–2014/15



10-1 採集された鯨体の到着を待つ調査員。10-2 調査母船に揚がった鯨体の生物調査開始。

## 2014/2015 南極海鯨類目視調査



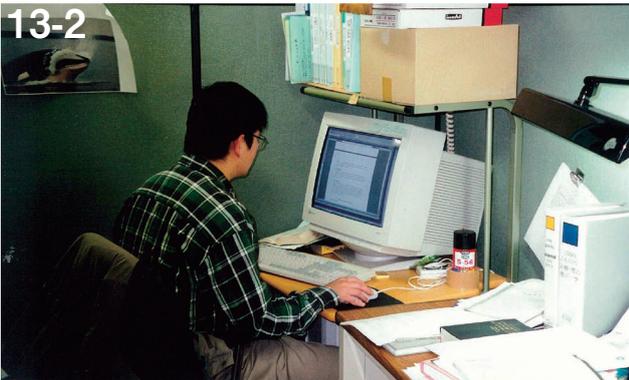
11-1 南極海鯨類目視調査の風景。11-2 採集された鯨のバイオプシー。11-3 バイオプシーサンプリング。

## NEWREP-A 2015/16-



12-1 生物調査・水晶体の採集。12-2 生物調査・皮脂厚の計測。12-3 生物調査・プランクトンネット。12-4 生物調査・餌生物。

## JARPN 1994-1999



13-1 JARPN 調査で採集されたマッコウクジラ。13-2 漁業との競合が課題に。13-3 ミンククジラの胃内容物。

## JARPN 1994-1999



14-1 鯨体の体重計測。14-2 胃内容物調査。

# JARPN II 2000–2016

15-1



15-2

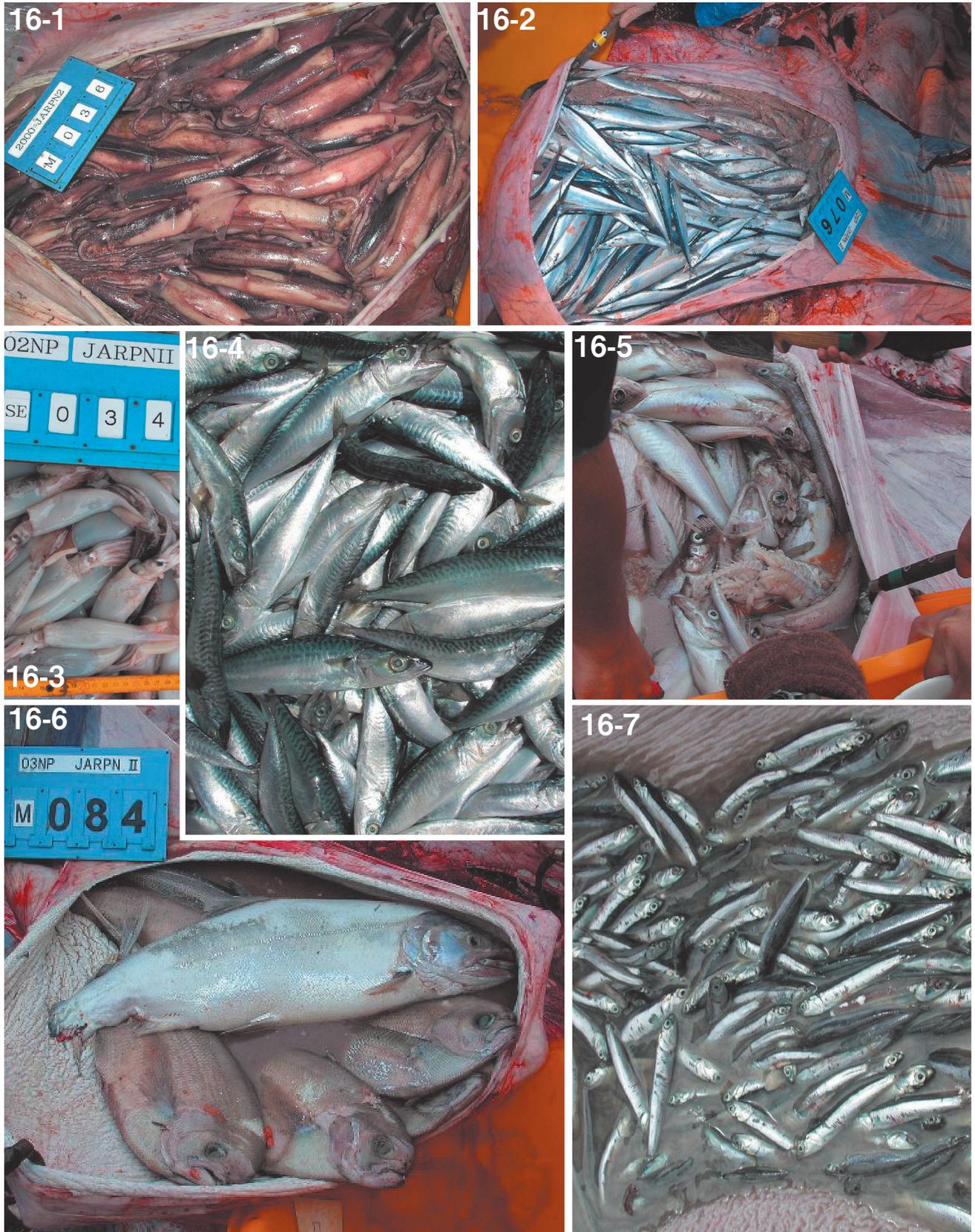


15-3



15-1 ニタリクジラの摂餌行動。15-2 セミクジラのバイオプシー・サンプリング。15-3 ニタリクジラの胃内容物（カタクチイワシ）。

## JARPN II 2000–2016



16-1 ミンククジラ胃内容物 (スルメイカ)。16-2 ミンククジラ胃内容物 (サンマ)。16-3 イワシクジラ胃内容物 (スルメイカ)。16-4 ニタリクジラ胃内容物 (サバ)。16-5 ミンククジラ胃内容物 (スケソウダラ)。16-6 ミンククジラ胃内容物 (シロサケとマナガツオ)。16-7 ニタリクジラ胃内容物 (カタクチイワシ)。

## JARPN II 2000–2016

17-1



17-1 共同船舶（株）が長年日鯨研の調査活動を支えてきた。

## JARPN II 沿岸域調査 2007-2016



18-1 出航するJARPNII沿岸域調査船団。18-2 鯨体の到着を待つ調査員。18-3 沿岸域調査では生物調査等の作業は陸上で行われる。

# NEWREP-NP 2017-

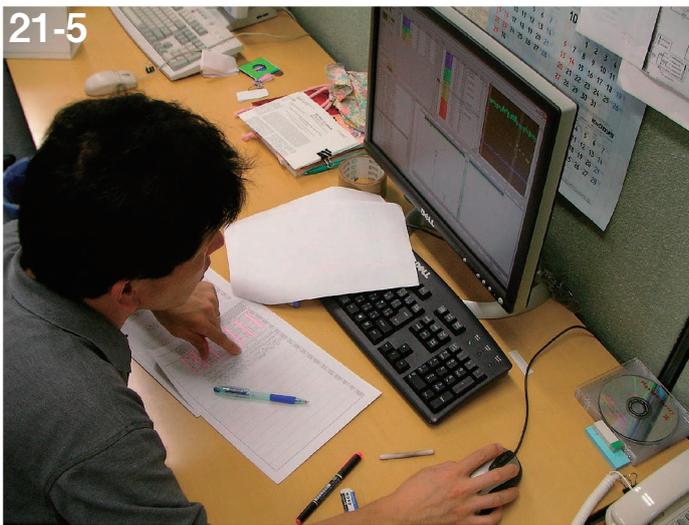
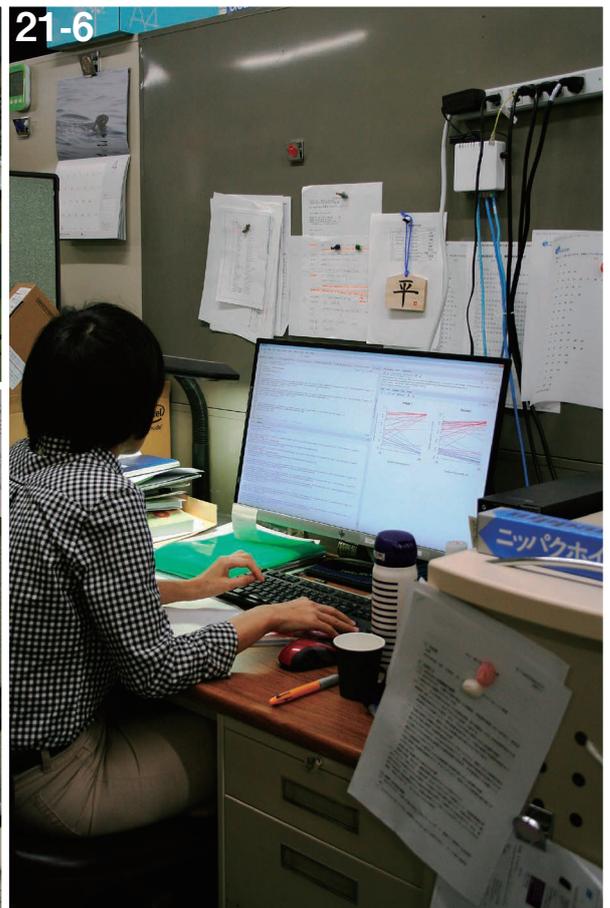
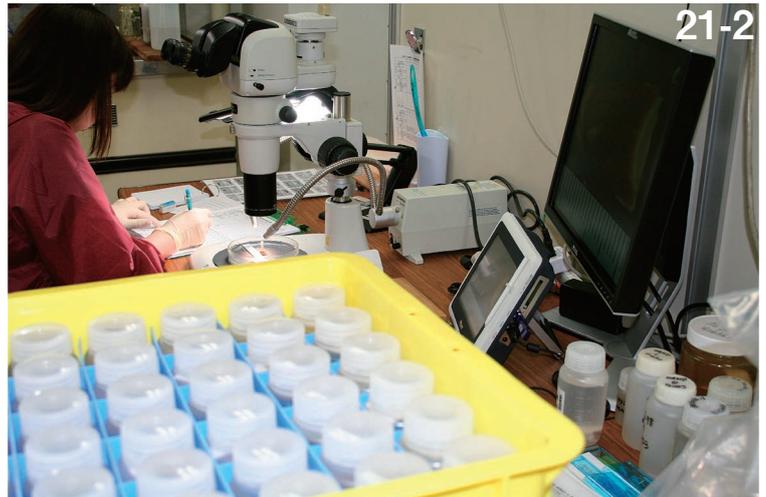


19-1 イワシクジラの生物調査(計測)。19-2 イワシクジラの胃内容物(サバ・ゴマサバ)。19-3 イワシクジラの胃内容物。19-4 イワシクジラの胃内容物。19-5 イワシクジラのバイオブシー採集および衛星標識装着実験。

## 調査研究活動・広報活動など



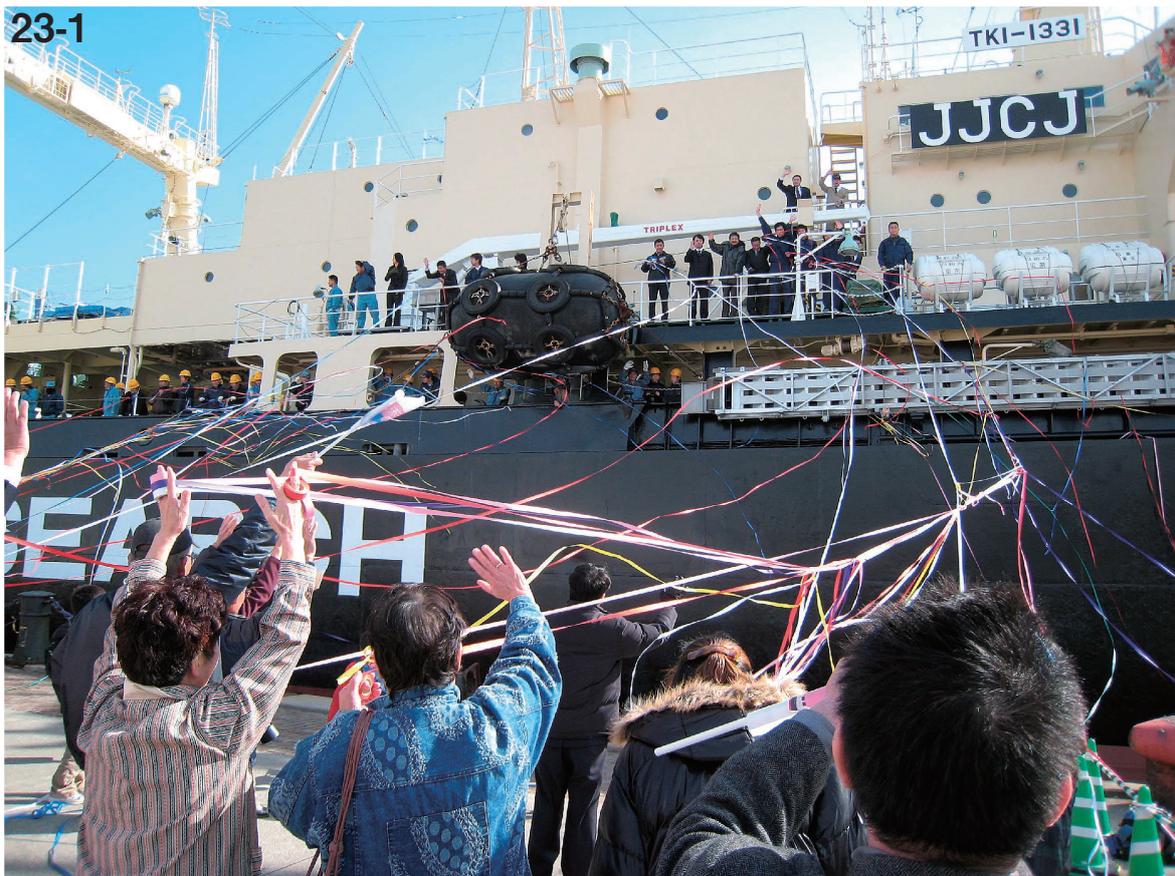
20-1 調査母船内での打合せの様子。20-2 耳垢栓を用いた年齢査定。20-3 科学データ解析作業。20-4 捕獲調査関連研究者会議の様子。20-5 実験室での作業。20-6 混獲したクジラの現地調査。



21-1 標本の整理作業。21-2 耳垢栓による年齢査定のための準備作業。21-3 新米生物調査員に講義。21-4 日鯨研図書室にて。21-5 データ解析作業。21-6 研究室での作業。



22-1 国際捕鯨員会総会にて。22-2 科学委員会の様子。



23-1 調査に向かう調査員を見送る。23-2 日新丸調査船団の入港式。

24-1



24-2



24-3



24-1 調査船帰港後の一般公開。24-2 調査母船日新丸の一般公開の展示風景。24-3 農林水産省消費者の部屋で日鯨研の活動をPR。



25-1 地域文化と野生動物シンポジウム（1994）。25-2 クジラ博士の出張授業。25-3 イベントでの日鯨研ブース。25-4 霞ヶ関子供見学デーで。

